



各店の自慢のケーキが並ぶ西宮洋菓子園遊会。人気店のケーキは開始早々になくなった。ノボテル甲子園で10月24日



# はんしんぱん

写真・文 山田哲也

38

## 取り組み多彩にPR

阪神間には数多くのケーキ店があり、味と技を競い洋菓子文化をつくってきた。

西宮や芦屋にケーキ店が増え始めたのは1970年前後で、店の奥でケーキを作り、販売する工房型が多いのが特徴だ。今

や芦屋発から全国区になった「アンリ・シャルパンティエ」も69年に創業した。

西宮市内には工房型の洋菓子店が約70店ある。洋菓子を清酒に次ぐ全国ブランドに育てようと、市と商工会議所が連携し、

「ケーキ工房のあるまち西宮」をPRしている。00年からは、市内の洋菓子店が提供したケーキをバイキング形式で賞味する

「西宮洋菓子園遊会」を始めた。7回目となる今年は、過去最高の31店が参加。5300通を

### ケーキの街

超える応募から抽選で選ばれたペア150組が3000個のケーキを思う存分味わった。同園遊会で知り合った6店のパティシエが企画した新商品も生まれた。昨年10月から、各店の焼き菓子を詰め合わせた「六門選」(3000円)を販売している。

西宮の取り組みは近隣の市にも広がっている。昨年からは宝塚では、洋菓子に和菓子とパンを加えた「おいしいまち宝塚」がスタート。今年も11月末までスタンラリーなどのイベントが開かれている。また、来年1月22日には初の「伊丹チョコリンピック2007」が開催される。